

ANNA AND SIMEON

アンナとシメオン

第3号

人の住む家から詩が生まれ
歌が称えられる
佐藤久勝

アシュラム
ASHRAM



シメオン黙想の家

住所／滋賀県近江八幡市土田町1191

シメオン黙想の家へのアクセス

《公共交通機関をご利用の場合》

JR琵琶湖線「近江八幡駅」北口、
バスのりばより 近江鉄道バス 長命寺線 長命寺行
「小幡上筋バス停」(6区間、5分)より徒歩10分

《お車でお越しの場合》

名神高速道路「竜王I.C.」より車で20分

お問い合わせ先

アシュラムセンター

〒523-0894 近江八幡市中村町567-2

TEL.0748-33-4030 FAX.0748-33-8856

メールアドレス contact@ashramcenter.jp

ホームページ <https://www.ashramcenter.jp>



編集後記

今年もアシュラムセンター・シメオン黙想の家でさまざまなことができました。今回もそのご報告ができることに感謝いたします。第3号では、冬のシメオンをご紹介します。ぜひ窓から覗く雪景色を実際にご覧ください。また、佐藤久勝氏の意匠デザインが施された「神戸女学院」について飯院長との対談を交えて特集しました。今年はアシュラムセンターにとって大きな存在を天に送った年でもあります。孫、ひ孫そして多くの方々に見送られた良い時となりました。世界では大戦の足音が聞こえてくるような不安の中にありますが、イエス・キリストの平安があるように祈ります。

アンナとシメオン 第3号

発行日 2023年12月1日
発行者 アシュラムセンター
編集長 榎本 恵
副編集長 榎本 光太
編集 榎戸 基、榎戸 真弓
デザイン 阿久田 孝司 (DESIGN COLLECTIVE)
写真 榎本 光太、榎本 恵

「学舎が教育する」 神戸女学院に活かされる ヴォーリズさんの精神

2022年12月13日

神戸女学院は1875年の創立で、2年後には150周年を迎えます。

ヴォーリズさんもお忙しい中、ありがとうございます。この間本当に40年ぶりぐらいでお会いしまして。

対談

神戸女学院
理事長・院長
飯 謙

アシュラムセンター
主幹牧師
榎本 恵

飯院長 いや、嬉しかったです。ここは院長室といって、神戸女学院が神戸から移転して来ましたとき、デフォレストさんという人が院長だったんですけど、その先生が最初に住人となって。院長職を約7、8年かな、全部では25年なされたんですけど。だからここでお仕事させてもらうというのは大変身の引き締まる思いであります。ヴォーリズさんとその先生は懇意でらっしゃって、いろんなことを相談しながらこの建物を作ったということなんです。

榎本牧師 ヴォーリズさんがこれを建てるときに、前の建築家の方に敬意を

飯院長 前の建築っていうとおかしいけど、山本通の建物っていうのは、あの人が作ったりこの人が作ったりっていう、そんなに調和のあるものではなかったんです。神戸女学院は1875年の創立で、2年後には150周年を迎えるんですけど。約150年前に建てた最初の建物。南舎と書いてナンシャと後に呼ばれるんですが、それがケンウッド館っていう宣教師館にイメージを移している。それから2番目に立った西舎っていうんですけど、西の校舎それが寮の正面のイメージになったり。いろんな人が献金してくれてようやく建てられた建物だったんですね。記憶とともにそういう人たちの志を移して。ヴォーリズさんはそういう一人一人の証をすごく大切にしている、自分自身もそこにそれを継承できるように努められたと思うんです。

「愛神愛隣」
飯院長 キャンパスは大きく3つに分けられると言われます。学びの領域と信仰を養うためのチャペルの領域として日常生活の領域と大きく3つに分けている。それで学びの領域では音楽館があつて、それで山に登りましたら左側に理系、右側に人文系、社会科学系があつて、真ん中に図書館がある。私ってこんなに頭いいと思ったけど、ちゃんと図書館に行ってみたらそうでもない気がついてたんだ。そしてその学んだことは隣人に仕えるためのことなんだ。やっぱりチャペルと向かい合っているから。会集派教会っていうのはどう隣人に仕えるか、自分たちの同心の友とどのように隣人に仕えるか、神に仕えるかっていうことを大切にしてきた教派です。そして自分が勉強したことがチャペルと向かい合つて隣人に仕えるための勉強であるという自覚を深める。そしてさらにその奥で日常生活へと広がっていくという。こういうね、ヴォーリズさん自身の捉えたキリスト教信仰っていうのかな、それが現れた建物群になっていると思っております。

榎本牧師 本当そうですね。ヴォーリズも結局医療ですとか学校ですとか

事業とか、いろんなことをやっていかれたけれども、やっぱり中心となるのがキリスト教の精神であるというところをやつてらっしゃったんだ。

飯院長 そう思います。だからそういう中で神戸女学院の学風が構築されていった。今たくさんクリスチャンが出てくるということではないけれど、キリスト教精神を体得した人が多く出ていて。6年なり4年なり10年なり、神戸女学院で学ぶ中で、そういった隣人に仕えるっていう精神を体得する人が、この校舎の中から生まれてきているんだ。

生徒の霊的な成長に寄与する。
美しい景観を活用する。

飯院長 ヴォーリズ先生はある時、神戸女学院の中ですごく大切なフレイズとして、「学舎が教育する」っていうことを言った。具体的には、神戸女学院がここに移転した時にね、『めぐみ』っていう同窓会の広報誌があるんです。その中で1933年の中にヴォーリズさんが自分はこのことを構想してこの建物をと、神戸女学院建設の覚え書きみたいなのを書いてくれているんです。その中に「兄弟姉妹との喜びのために」っていうことを彼自身が書いて

て、「神戸女学院はキリスト教学校だから、生徒の霊的な成長に寄与するのだ」と。それから「美しい景観を活用する」ということを書いているんです。美しい景観っていうのは、見て美しいっていうよりも与えられたものを活かしていくっていう。ペテロの第一の手紙4章10節に「あなたがたは賜物の管理者。善い管理者となりなさい」というフレイズがあるけれど、神様から与えられたものをどう活かしていくかっていうことを、よく考えて校舎を作り、そして山の下に音楽館を作るっていうのもそうだし、それからこの平坦なところに人文系と、コドラートっていうのかな中庭を作つて、それで自分たちの将来を見て、向こうの方に日常生活を。あとね、空がよく見えるのよ、中庭から。これは神戸女学院の先輩方の慧眼というか大切な知恵だったと思うんだけど、中庭からは向こうに空しか見えないようにする。次の建物が見えちゃったら何やってことになってしまふけど、この空間、与えられた空間の中で自分たちの未来も考えていきましよう。

何に使うのかよくわからない
待ち合いみたいな場所もあるんです。

飯院長 先ほど榎本先生と学内を

榎本牧師 ありがとうございます。
いろいろ勉強になりました。

飯院長 今日は貴重な機会をいただきありがとうございます。



Ken Ii
飯 謙
学校法人神戸女学院
理事長・院長



Megumi Enomoto
榎本 恵
宗教法人アシュラムセンター
主幹牧師

この文章は24分間の対談の一部を書き出したものです。
対談すべてを「ちいばチャンネル」(YouTube)でご覧いただけます。



写真で見る

黙	シ
想	メ
の	オ
家	ン

細部に宿る美と信仰

見つけて欲しい。ラハブの欄干、ベテスダの池、
スワステイカ(卍)、そしてベツレヘムの星(八芒星)



黙想の家とモミジ達の会話に
耳を澄まして...

夕焼け色の窓、
どこにあるかな。

朝一番の光と影が優しく届く和室。

氷の粒が輝き踊る
2階小部屋の窓。

氷の下にはラビリンス。



人の肉体は減るようです。その人についての記憶もまた、潰えていきます。その人について書かれた言葉も、その人が持っていた聖書も、木の葉のように寝ていたベッドも、腰掛けていた椅子も、いつか朽ちていくでしょう。そしてその人の名前が刻まれたプレートも、わたしたちのいなくなった遠い未来に、紅葉の枯れ葉が覆うようになるかもしれません。

永遠とはどこまでも神のものであって、わたしたちには始まりがあり、終わりがあります。そのことをことさら嘆く必要はないでしょう。それはこの世界のあらゆる被造物が生きているということの証なのですから。

もっともそれぞれに与えられた命の長さは異なるようです。祖母は九十七年の生涯を全うしました。彼女にさまざまなものを受けたわたしたちの彼女の記憶は、わたしたちが朽ちるのとともに消えていくのでしょうか？ 彼女の使った日々の道具は、いつ無くなるので

しょうか？ それならば彼女の名を刻んだプレートは？

プレートに名前を刻むことは、異なる時間に彼女の痕跡を託すことです。永遠より遥かに短く、しかし人の一生よりは格段に長い、その時間に。それは記憶の可能性をひらくことです。わたしたちがいなくなったあと、そのいつか、誰かがプレートの傍を訪れ、そこに積もった落ち葉を払う日がくるかもしれないという可能性を。単に彼女が記憶されるのではなく、彼女が見ようとしたものが再び記憶されるという可能性を。

そのいつかに信頼することを、そのいつかが今になると信じることを、わたしたちは希望と呼ぶのではないのでしょうか。わたしたちの祈りははじめてのものではなく、最後のものでもないのです。それと同じようにこの悼みもまたはじめてのものではなく、最後のものでもありません。「それは、ラケルの葬りの碑として今でも残っている」のです。



榎本 空(えのもと そら)

1988年・滋賀県生まれ。沖縄県伊江島で育つ。同志社大学神学部修士課程修了。台湾・長栄大学留学中、C・S・ソーンに師事。米・ユニオン神学校 S. T. M 修了。現在、ノースカロライナ大学チャペルヒル校人類学専攻博士課程に在籍し、伊江島の土地闘争とその記憶について研究している。著書に『それで君の声はどこにあるんだ？』（岩波書店）が、翻訳書にジェイムズ・H・コーン『誰にも言わないと言ったけれど——黒人神学と私』（新教出版社）、サイディヤ・ハートマン『母を失うこと 大西洋奴隷航路をたどる旅』（晶文社）がある。

はじめでもなく、
最後でもなく
榎本 空

ヤコブは、彼女の葬られた所に記念碑を立てた。
それは、ラケルの葬りの碑として今でも残っている。

「創世記三十五章二十節」



神の美が学園となる

Beauty Becomes a College

シャーロット・デフォレスト(第5代院長)

美しい心を育むための品格ある建築を目指したキャンパスは、中庭を中心に知性を表す図書館とキリスト教精神を表す礼拝堂のある総務館が向かい合い、文学館と理学館が向かい合う。そしてこの4つの校舎が渡り廊下でつながっている。ここにヴォーリズの建築理念が現れている。意匠は佐藤久勝が担当した。シメオン黙想の家にもある八芒星がここにもある。

2023年10月23日に恵牧師がチャペルで講話をした。院長の飯謙先生は、いろいろ牧師の時代から恵牧師とは家族的なお付き合い。キャンパス内をご案内頂いた。

物的なものに目を奪われて時代に流されるのではなく、キリスト教主義の伝統に立って真に大切なものを見分けることのできる女性教育を教育の根幹とした神戸女学院。岡田山キャンパスは、守り伝えてゆくべき大切なものとして卒業生、在校生はもとより、関わる人の誇りや心のよりどころとなっている。



神戸女学院 岡田山キャンパス

《ヴォーリズ建築・重要文化財》

豊かな自然との調和と合理的なキャンパス。その佇まいは、単なる建築物でなく創立以来148年にわたり培ってきた教育力と文化を表している。90年の歳月を感じさせない、成熟した教育環境だ。

妻、満喜子の母校である神戸女学院はヴォーリズにとっても特別であったに違いない。学院の創立期に尽力した一人ひとりの証を記憶として留めていくデザイン

豊かな自然との調和と合理的なキャンパス。その佇まいは、単なる建築物でなく創立以来148年にわたり培ってきた教育力と文化を表している。90年の歳月を感じさせない、成熟した教育環境だ。

戦争、震災を経て、現存する12棟が2014年に国の重要文化財に指定された。

神 戸女学院は1875年、アメリカンボードの支援を得て神戸市山本通に寄宿舎を備えた女子のためのミッションスクールとして開校。その後、岡田山に移転し校舎17棟が1931年竣工。アメリカのリベラルアーツ教育理念を取り入れたヴォーリズの傑作のひとつである。

アシウムセンターと
ゆかりのある場所を紹介していきます。

たびんちゅ牧師、東へ西へ

Vol.3

● ユース・リトリートアシュラム

2,30代を対象としたアシュラムを開催しました。約10名の参加者があり、国際色豊かなメンバーでしたが、同じ天に国籍を持つ者同士良き交わりができました。静まり祈る機会を求めている若者が多くいることに驚きと共に喜びを感じます。アシュラムの「聖書に聴き祈る」ことがこれからの世代に続いていくことを願って今後も開催していきます。



● ヴォーリズ建築見学会

近江八幡のヴォーリズ建築を巡る一環でここシメオン黙想の家にも多くの方に来ていただきました。ヴォーリズ記念館館長 藪秀実氏より当時の様子を詳細にご解説いただきました。皆様に喜んでいただき感謝いたします。これからもこの繋がりが続いていくことを期待しています。



● 修道場・リトリートアシュラム

第2回目のリトリートアシュラムが開催されました。「リラ・プレカリア」ハープと歌による祈りやインド音楽の演奏会、榎本空氏をはじめ様々な講師をお呼びして貴重な証をいただきました。同時開催の合同平和祈禱会やクリスマスコンサートなどのオープンイベントは、どなたでもご参加いただけます。



● 天上の友を憶える日礼拝・メモリアルプレート

今年一年間に天に召された方々を憶える礼拝がシメオン黙想の家で行われ、皆で讃美を捧げました。またアプローチの脇に、今年も4枚のプレートが据えられました。アシュラムの礎と共に築いた方、支え折ってくださった方々、そしてこの家に夢と理想を込めた方。受け継がれた信仰がこの地に残り、来る者をお出迎えします。

支援のお願い

私たちは、シメオン黙想の家、アンナ祈りの家、これらを拠点として誰もが集える共同体を形成し、ヴォーリズ建築の保存活用を進めていきます。そのためには、建物の維持管理、購入費の返済、また今後の活動に多くの費用を必要とします。上述の共同体構想に共鳴し、積極にご協力、ご支援、ご奉仕いただける方を会員という形で募集します。

金銭的なご支援だけでなく、建物や敷地の清掃

などのご奉仕、アシュラム集会へのご参加をいただくと幸いです。

ご協力いただいた方には、毎年本誌をお送りし、近況報告やヴォーリズ建築などについてお伝えしていきます。また現在は、シメオン黙想の家はアシュラム集会等の利用に限定していますが、今後見学や宿泊を可能にしていき、ヴォーリズ建築の魅力を伝えていきたいと思っています。

オンライン献金ができるようになりました。QRコードを読み取ってください。



感謝のメッセージ

主の平和

「アンナとシメオン」第3号を、皆様にお届けすることができましたことを、心より感謝いたします。

今秋、「重要文化財神戸女学院特別見学会」の講演に講師として招いていただきました。1933年に完成した神戸女学院の建物群は、ヴォーリズ建築の最高傑作と称えられています。

実は、この建物の意匠デザインに携わったのが、現在私たちが「シメオン黙想の家」として託されている洋館の最初の持ち主、佐藤久勝氏でした。佐藤氏は、ヴォーリズ設計事務所のエースとして、多くの建築デザインを手掛けられた方でしたが、これを建てられた後すぐに、42歳の若さで、天へと召されていくのです。「霊想 霊腕の天才であった」と多くの人から慕われた佐藤氏でありましたが、そのあまりにも早い死は、ヴォーリズをはじめ関係者の方々の大きな悲しみであったと言われています。

そんな佐藤氏が、最後に書き残した文章があります。「『家は人の住む機械である』誰かの言葉にこんなのがあった。そして自分も、この新興思想を風靡した言葉を肯定する一人ではあるが、また一方に、人の住み家から詩を求め、歌を称える必要を捨てることのできない人間でもある」（1932年湖畔の声11月号「寂光に輝く」より）。

フランスのル・コルビュジエに代表される「モダニズム建築」は、当時の流行であり、現在の都市部のビルディングへと引き継がれていま

す。水平と垂直で構成されたガラスと鉄とセメントでできたまさに機械のような建物が台頭してくる中で、さまざまな形の窓や意匠を凝らしたデザインは、時代遅れのものとなっていたのです。しかし、佐藤氏はそのような中で、牧歌的生活に憧れ、建物に詩や歌を求めたのでした。そしてそれは、彼のクリスチャンとしての、また日曜学校校長としての矜持でもあったのです。「やがて池に水草芽ぐみ、バルコニーには緋布を乾かし、ベテスダや、ラハブを語って、童共と交わらんことも楽しみの一つである」（同）彼はこう書くのです。

建物は、決して人の住む機械などではなく、そこに詩や歌の生まれる美と信仰の場となる。このことこそが、ヴォーリズの建築設計の思想そのものなのです。ヴォーリズは、神戸女学院の建築にあたって、「重要なことは、霊的生活（内容）の上に建設的要素（外観）を持っているということ」だと断言するのです。

今、この建物を霊性運動の場として用いようとしている私たちは、この佐藤氏の願いと祈りを、そしてヴォーリズの求めた霊的生活を受け継がなければならないと、強く決意しています。どうか、皆様、この「アンナ祈りの家とシメオン黙想の家」へお越しく下さい。そして、90年前にこの建物を建てた佐藤氏の、そしてヴォーリズの残した霊的サイン（痕跡）を探してみてください。きっとそれが、「Relay意志を繋いでいくべき」大切なものに違いありません。皆様のお越しを、私たち一同、心よりお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本 恵